

# 慈明院寺報十二月号

## 因幡の白兎



昔々、沖の小島に住む一匹のウサギがありました。ウサギは対岸の大きな陸地に渡つてみたいと思い、海に住むサメに問い合わせました。「どちらの仲間が数が多いか、勝負しよう。対岸の陸地までならんでおくれ。」サメは面白いと仲間を集めてならびました。

ウサギはしめしめとサメの背を飛び移り、対岸の島を目指します。あと少しで対岸に着くという時に、ウサギは口を滑らせて「やーい、だまされたな。」とサメをからかいいます。怒った最後のサメに捕まつたウサギは、毛や皮をはがれ痛々しい赤裸のウサギになつてしましました。

因幡の浜でウサギが泣いていると、たくさんの中の神様が通りかかりました。

その神様たちは、因幡の国の八上姫に求婚を申し込む一団でした。その中の一人の神様が「ウサギよ、海水で体を洗い、風で乾かすと良い。」と教えました。

ウサギがその通りにすると、体じゅうがヒビ割れてもつと苦しくなりました。神様はウサギにウソを教えて面白がつていたのでした。ウサギはたまらず泣きだします。するとそこへ、先に行つたたくさんの神様の荷物をかかえた末の弟である大国主命という神様が、ウサギを憐れんで「川の真水で体を洗い、ガマの穂を敷いてその上に寝転びなさい。」と教えました。

ウサギがいう通りにすると、すっかり毛並みが戻り白いウサギになりました。ウサギは、八上姫はきっと大国主命と結婚するでしょうと予言して、優しい大国主命は八上姫と結ばれましたとさ、めでたしめでたし。

この話、古事記にある神話なのだが実は史実を描いているという。サメは海賊を表し、白ウサギはその海賊と戦つた因幡の豪族を表しているという。負けそうな因幡の豪族に力を貸して、大国主命が因幡の姫を娶つた話だそうだ。それが神話となり、ウソの因果応報を教える法話となつた。

住職 合掌

新年のご案内 初大黒天 護摩祈願法会  
正月元旦、恒例の「令和五年初大黒天 護摩祈願法会」を左記日時にて奉行致します。皆様のご参拝をお待ちしております。(詳しくは別紙参照)

一番座 一月一日 午後一時より (正月元旦のお昼一時より)  
二番座 一月一日 午後一時より (正月元旦の夜中十二時より)

\* 古いお札・お守り等、当日お持ち下さい。後日 燃供養致します。  
\* 紅白もち、縁起物のお菓子をお接待致します。

## (来年)令和五年の年忌について

一周忌	令和四年	逝去	来年 令和五年に年忌を迎える
三回忌	令和三年	リ	仏様の亡くなられた年の一覧です。
七回忌	平成二十九年	リ	参考にして頂き、法事の希望など
十三回忌	同二十三年	リ	ございましたら、電話でご連絡下さい
十七回忌	同十九年	リ	ませ。
二十三回忌	同十三年	リ	
二十九回忌	同十一年	リ	
三十三回忌	同九年	リ	
二十七回忌	同九年	リ	
三十七回忌	同三年	リ	
五十九回忌	昭和六十二年	リ	
七十回忌	同四十九年	リ	
百回忌	同二十九年	リ	
	大正十三年	リ	

年忌の法事はご命日より前に行う場合が多いですが、必ず前でなければならないという訳でもありません。命日を過ぎて、ご法事をなさつても大丈夫ですし、都合の良い日になつてご供養して頂ければと思います。

\* (昭和六十四年)は(平成元年)、(平成三十一年)は(令和元年)と同年。

慈明院(〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一ー二〇)

TEL(0九二)八〇四一四五七〇 FAX(0九二)八〇四一四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一(五二八一)一七四九四